

令和4年度 事業報告書

学校法人 大村文化学園

I 法人の概要

■建学の精神、教育理念・教育目標

本校は志の高い卒業生を送り出し、業界の役に立ちたいと考えています。その為に少しでも良い教育環境を整えるべく、O.designs・各種検定・デビュープログラムなど、様々な施設やプログラムを準備しています。目標は単に希望する職種に就く為だけではなく、もっと高いところに設定しています。

OMULA の教育目標は「業界を牽引する学生を育成する」です。

本校にとって一番重要なのは学生を立派な社会人に育てる事です。一番大切な存在ですから、お客さん扱いをするのではなく、しっかりと教育して立派な人間に育てます。

本校を卒業して業界に出た時に、仕事に専念できるように今のうちからマナーなどを身に付け、皆さんのアイデアやパワーを存分に発揮して欲しい。そして新入社員でありながらも企業にとって重要な人材になって欲しいと思っています。

本校の特徴は、教育理念「一に人格二に技術」にのっとりた人格形成と、回数理論に裏打ちされた技術教育を徹底的に行うことです。学校カリキュラムには様々な課題・イベントを用意しています。積極的に取り組み、優れた人格と技術を身に付け、立派な社会人になって卒業して欲しいと思っています。

カリキュラムの中には検定や資格試験も含まれています。しかし資格取得は大きな目標ではあっても、あくまでも自分の夢への通過点です。自分の夢に向かって進む為に、社会に出た後に「どんな自分になりたいか」を明確にし、それに向かって努力をする意識を持つことが一番重要です。その意識を持たないと資格取得がゴールのような気持ちになってしまいます。

そして意識をした努力を続ける過程で「夢」は少しずつ形を変え、より具体的なものに進化するはず。そこまで行ったらもう夢実現はすぐそこです！

学校生活を通して目指す業界を学生に深く知ってもらい、その中で自分はどのようにお客様や、業界の方々とかかわりながら生きていくのか。本校で努力することの楽しさ、こだわりを高く持つことの有意義さを、学生に体験してもらい身に付けます。

■学校法人の沿革

【法人の設立】平成4年3月31日 学校法人の設立認可(福岡県知事より)
平成4年4月2日 法人登記の成立

【学校の設置】平成4年4月1日 専修学校「大村美容専門学校」を設置
※それ以前は各種学校「大村美容専門学院」として昭和29年に開校

【沿革】

- 昭和 4年 現理事長の祖母である大村トミが、福岡市新大工町(現在の唐人町)に福岡で2番目の洋髪専門店として、恩師マリールイズの頭文字をいただいてML美容院(後にML美容室に変更)を開設。
大村トミに教えを請いたいと願う者が年々多数にのぼり、後の学校設立へと繋がっていく。
- 昭和20年 学校の全身となる大村美容研究所を創設。美容師の技術指導を本格的に始める。
- 昭和29年 福岡市東唐人町(現在の唐人町)に、福岡県知事の承認を得て大村美容専門学院を創立。
同年5月厚生大臣により美容師養成施設の指定をうけて美容技術の訓練のみに止まらず、全人格的教育を目指した美容師養成を展開した。
- 昭和40年 福岡市黒門へ校舎を新築移転。
合わせて定員を増加し、業界ならびに入学希望者の要望に応えると共に改めて厚生大臣指定を受ける。
その後も校舎の拡張を行って教育環境を整備し、教育内容も現代の潮流に即応できる体制を整えて、美容界への有能な人材供給の努力を継続しつつ現在に至っている。
- 昭和59年 入学資格を高校卒業以上に設定。技術だけでなく人間形成にも力を入れるため、一定の年齢と経験を必要とした。
- 平成 4年 学校法人大村文化学園を設立。
(設立時の理事長は大村統)
それにともない、大村美容専門学院を専修学校大村美容専門学校へ改組。
- 平成 6年 メイク専科(現在のメイクアップ科)を設置。
- 平成 8年 メイクアップ専科を2年制に移行。
美容師法の改正により、美容学校への入学資格が高校卒業以上、修業年限が2年となるが、先を見て既に変更をしていたため、体制の変更は必要なかった。
- 平成10年 美容師法改定により、大村美容専門学校の定員増。
それに合わせて、校舎を増築。(1. 2号館)
- 平成11年 福岡市中央区大名にオムニススタジオを設置。
法人が運営する美容室を設置することにより、より実践的な教育に力を注ぐ環境が整う。

- 平成14年 大村ファッションカレッジを開校。トータルビューティーの総合学校を目指して、美容・メイクに続き、ファッションの分野に進出する。
合わせて大村美容専門学校を定員増。
- 平成15年 大村ファッションカレッジを大村ファッションデザイン専門学校に校名変更。
- 平成17年 大村美容専門学校を定員増。
合わせて、校舎を新築。(3号館)
- 平成21年 役員の改選により、学校法人設立当初から理事長を務めてきた大村統に代わり、4月1日より大村陽之介が理事長に就任。(大村統は会長に就任をし、理事に再任)
合わせて、理事・監事においても大幅に人員を改選。

メイクアップ専科内にエステティックコースを設置。
- 平成22年 トータルビューティーの総合学校としての教育環境を今まで以上に充実させるため、大村美容専門学校と大村ファッションデザイン専門学校を統合する。
合わせて、福岡大村美容ファッション専門学校に校名変更。

美容の3年制学科として、トップスタイリスト科を設置。
メイクアップ専科エステティックコースを独立させ、エステティック科を設置。
メイクアップ専科をメイクアップ科に学科名変更。
- 平成26年 トップスタイリスト科を2年制に変更し、その修了者を対象とした上級学科として、トップスタイリスト専攻科(1年制)を設置。
メイクアップ科とエステティック科を統合して、メイク・エステ科を設置。
ファッションクリエイター科(3年制)を設置。

美容科及びファッション科が職業実践専門課程として認定を受ける。
- 平成29年 トップスタイリスト科およびメイク・エステ科が職業実践専門課程として認定を受ける。
- 平成30年 商業実務専門課程グローバルビジネス科を設置。
メイク・エステ科をメイクアップ科に名称変更。
ファッションクリエイター科が職業実践専門課程として認定を受ける。
- 令和 5年 大村グローバルビジネス専門学校を開校。
大村美容ファッション専門学校グローバルビジネス科の募集を停止。

■設置する学校・学科および学生数の状況

大村美容ファッション専門学校

2023.5.1 現在

学科名	修業 年限	入学 定員	総 定員	1年 生	2年 生	3年 生	合計
美容科	2	120	240	114	113		227
トップスタイリスト科	2	40	80	29	23		52
トップスタイリスト専攻科	1	40	40	9			9
メイクアップ科	2	50	100	41	44		85
ファッション科	2	50	100	46	43		89
ファッションクリエイター科	3	20	60	13	15	5	33
合 計		320	620	252	238	5	495

大村グローバルビジネス専門学校

2023.5.1 現在

学科名	修業 年限	入学 定員	総 定員	1年 生	2年 生	3年 生	合計
グローバルビジネス科	2	200	400	127	136		263
合 計		200	400	127	136		263

■役員の概要

2023.5.1 現在

区分	氏名	勤務先	勤務先役職
理事	大村 陽之介	(学)大村文化学園	理事長
	萩野 清美	(学)大村文化学園	校長(美容ファッション)
	藤 規子	(学)大村文化学園	ML美容室 責任者
	高木 進一	(株)ダリア	代表取締役
	富永 太郎	福岡倉庫(株)	代表取締役
	吉次 正利	吉次商事(株)	代表取締役
	大村 千由美		
監事	中島 彰彦	(株)アソウ・ヒューマニーセンター	代表取締役
	増田 誠司	(株)増屋	代表取締役

	定数	現在数
理事	7	7
監事	2	2
役員 合計	9	9

■評議員の概要

2023.5.1 現在

氏名	勤務先	勤務先役職
大村 陽之介	(学)大村文化学園	理事長
萩野 清美	(学)大村文化学園	校長(美容ファッション)
吉原 一雄	(学)大村文化学園	校長(グローバルビジネス)
宇野 信之	(学)大村文化学園	課長
田中 昭子	(学)大村文化学園	課長
緒方 直樹	(学)大村文化学園	課長
北崎 幸子	(学)大村文化学園	課長代理
立花 浩	(学)大村文化学園	主任
藤 規子	(学)大村文化学園	ML美容室 責任者
高木 進一	(株)ダリア	代表取締役
富永 太郎	福岡倉庫(株)	代表取締役
吉次 正利	吉次商事(株)	代表取締役
大村 統		
大村 千由美		
大村 敦子		

定数	現在数
15	15

■教職員の概要

2023.5.1 現在

キャビネット メンバー	理事長	大村陽之介	1	4
	校長(美容ファッション)	萩野清美	1	
	校長(グローバルビジネス)	吉原一雄	1	
	事務長代理	吉田公包	1	
教 員	本務		37	93
	兼務		56	
学校職員	本務		15	15
	兼務		0	
法人職員	本務		5	6
	兼務		1	
法人合計				118

Ⅱ 事業の概要

■事業経過

1. 学生募集目標について

- ① 既存学科の入学目標280名に対し、入学243名、目標達成率86.7%で未達成でした。
昨年同様に対象者の来校数を伸ばせなかった部分が影響している。夏休み前までは前年比を上回っていたが、その後の来校者数確保に苦戦した。
面談出願率については昨年同様に健闘しているのでこの部分は継続して次年度の学生募集に活かしていきます。
- ② グローバルビジネス科入学者実績は、127名でした。
日本語学校の卒業生が少ない中、留学生間の「就職なら OMULA」口コミと、学生の満足度の高さが入学者数の維持につながっています。

2. 教育課程改革と改善について

- ① オオムラプロジェクト・不易流行。
センスを育てる学校として取り組み、・授業時間の短縮・選択授業と課外授業の整備・部活の充実・校舎の整備など様々なことを実施しました。
- ② 学生の主体性を育む教育の充実(アクティブラーニング)
- ③ 自主性を伸ばす教育の強化各科の専門分野が学べる、好きな分野をとことん学べる、美容・メイク・ファッションの学科を持つ大村の特色を活かせるカリキュラムの構築を行いました。
- ④ 昨年に引き続きキャリア教育において「生きる力」職業意識の醸成を図りました。

3. 教育目標達成の為の方針について

- ① 1年次の退学率低減に向けて「生活指導」を強化する。
- ② 美容師国家試験合格率向上のために、特に学科科目対策を図る。
- ③ GB 科は、日本の常識の理解と実践、大村の人格教育を導入しました。
- ④ 全学科でインターンシップの機会を増やし産学共同教育の更なる強化を計る。
- ⑤ 近隣活動や外部コンテストへの参加等、教育の質を上げることで、教学の室に磨きを掛ける。
- ⑥ ファシリテーター(2年生)を活用し、先輩と気軽に話せる環境を整えた。

4. 就職活動、卒業生について

就職活動は、コロナの影響もあり、オンライン企業説明・面接が中心となり、自己PR動画やオンライン対策授業などを実施し学生指導の強化を図りましたが昨年の引き続き十分な成果を出すことが出来ていません。
インターンシップについてもコロナウィルスの影響がまだ残っている状況でした。

学生の社会人としてのキャリア教育による職業意識の教育が課題です。

本年度就職率は 87.7%

特にメイク、ファッション分野については厳しい結果となりました。今後も継続して卒業生の就職指導を実施し、内定獲得に向けてのフォローを行ってまいります。

5. 学生サービスについては

修学支援制度も浸透し、貸与奨学金と利用者がとも多くなっています。

奨学金利用者 55.3%

修学支援制度は、給付奨学金、入学金授業料等の学費減免をセットで受けることが出来るもので、貸与奨学金と併用の学生も多く奨学金制度の理解等浸透してきました。学費相談など柔軟に対応し個々に合った提案、情報発信も行っています。

6. 管理部門の目標管理

- ① 学校試算の有効活用を期して、銀行対策、不動産対策を行いました。
- ② 予算委員会、予算執行管理の精緻化で、人件費・管理経費の削減を徹底しました。
- ③ 教職員の健康管理、福利厚生情報提供、働きやすい環境整備を図りました。

■施設等の概要

① 土地

所在地	用途	㎡数	摘要
福岡市中央区黒門 2-6	校地	1,051.26	大村美容ファッション専門学校 校地
福岡市中央区黒門 4-41	校地	460.57	大村グローバルビジネス専門学校 校地
福岡市中央区唐人町 1-2-8		109.30	賃貸物件として外部に貸し出し
合計		1,621.13	

② 建物

所在地	用途	㎡数	摘要
福岡市中央区黒門 2-6	校舎	2683.96	大村美容ファッション専門学校 1・2号館
福岡市中央区黒門 2-6	校舎	1485.57	大村美容ファッション専門学校 3号館
福岡市中央区黒門 4-41	校舎	1035.12	大村グローバルビジネス専門学校 4号館
福岡市中央区唐人町 1-2-8		238.86	賃貸物件として外部に貸し出し
合計		5443.51	

Ⅲ 財務の概要

■収支計算書、貸借対照表

① 資金収支計算書

科目	令和4年度
学生生徒等納付金収入	1,068,654,940
手数料収入	17,779,000
補助金収入	67,610,800
資産売却収入	1,288,900
付随事業・収益事業収入	21,994,317
受取利息・配当金収入	885,604
雑収入	4,083,901
借入金等収入	350,000,000
前受金収入	505,394,300
その他の収入	339,102,597
資金収入調整勘定	△ 650,330,194
前年度繰越支払資金	460,390,686
収入の部 合計	2,186,854,851
人件費支出	347,970,136
教育研究経費支出	484,069,524
管理経費支出	172,447,198
借入金等利息支出	4,204,327
雑損失支出	58,000
借入金等返済支出	400,400,000
施設関係支出	1,617,000
設備関係支出	13,045,903
資産運用支出	22,220,394
その他の支出	443,154,223
資金支出調整勘定	△ 131,124,364
翌年度繰越支払資金	428,792,510
支出の部 合計	2,186,854,851

② 事業活動収支計算書

科目	令和4年度
学生生徒等納付金	1,068,654,940
手数料	17,779,000
經常費等補助金	67,610,800
付随事業収入	21,994,317
雑収入	4,083,901
教育活動収入計	1,180,122,958
人件費	347,970,136
教育研究経費	524,059,332
管理経費	175,449,417
徴収不能額等	2,404,000
教育活動支出計	1,049,882,885
教育活動収支差額	130,240,073
受取利息・配当金	885,604
教育活動外収入計	885,604
借入金等利息	4,204,327
教育活動外支出計	4,204,327
教育活動外収支差額	△ 3,318,723
經常収支差額	126,921,350
資産売却差額	1,267,319
特別収入計	1,267,319
資産処分差額	1,211,584
雑損失	58,000
特別支出計	1,269,584
特別収支差額	△ 2,265
基本金組入前当年度収支差額	126,919,085
基本金組入額合計	0
当年度収支差額	126,919,085
前年度繰越収支差額	△ 1,192,531,473
基本金取崩額	84,096,065
翌年度繰越収支差額	△ 981,516,323

③ 貸借対照表

科目	令和4年度
固定資産	2,393,808,517
流動資産	535,930,167
資産の部合計	2,929,738,684
固定負債	192,250,000
流動負債	789,729,799
負債の部合計	981,979,799
基本金	2,929,275,208
繰越収支差額	△ 981,516,323
純資産の部合計	1,947,758,885
負債及び純資産の部合計	2,929,738,684

■収支計算書、貸借対照表の状況

① 資金収支計算書

今年度は入学生の推移も安定し、また経費支出においても予算内での管理ができました。しかし、次年度の入学生数が減少するという事で前受金の減少があり、結果、翌年度繰越支払資金は前年度末から減少しています。

② 事業活動収支計算書

収入が安定し、かつ支出の予算管理徹底から収支差額はプラスの維持となりました。コロナの制限がなくなりつつありますので、今後、教育活動が再びコロナ前のように活発になっていきます。予算管理の徹底を継続してまいります。

③ 貸借対照表の状況

昨年度、大きな校舎改装工事を行い、それに伴う長期借入金が増加しています。グローバルビジネス校の開校に関しては既存の建物を使っていますので、資産の変動に大きな影響はありません。